

Q&A

一般質問



まるおか とよかず
丸岡 豊和 議員
新政会



海洋ごみ問題解決のために アクションを

Q 海洋ごみが社会的な問題となる中、海の恩恵を受けてきた歴史がある本市は、海洋ごみに関心を持ち、解決すべくアクションを起こすべきではないか。

A 海洋ごみには、生活系ごみ等に起因するものが多く含まれており、河川その他の公共の水域を経由するなどして、海へ流入していることから、海洋ごみ等の発生を抑制するには、生活系ごみの減量化や散乱などを防止することが重要であると考えます。

本市としては、市民が海洋ごみ問題について理解を深め、その自覚を高められるよう市広報紙やホームページなどあらゆる機会を通じて、普及啓発を行うとともに、リデュース・リユース・リサイクル(3R)の推進等により、ごみの減量化や徹底した分別収集を促進し、海の自然を守っていききたいと考えています。

(市民生活部長)

旧沙弥小中学校の跡地の 有効利用を

Q 本市の観光資源の一つである旧沙弥小中学校の跡地は、イベント等開催時以外は草に覆われているのが現状である。そこで、この場所を有効利用する考えは。

A 瀬戸内国際芸術祭開催期間以外の時期は、まれに活用ができるのみにとどまっており、十分活用できていない現状にある一方で、当該跡地は、瀬戸内海国立公園内に位置するとともに、香川県指定史跡である沙弥ナカダ浜遺跡の範囲内に立地しており、施設の新設や改修については、大きな制約を受ける場所になっています。したがって、当該跡地の活用は、市内の文化・観光関係部署に加え、環境省や香川県等の関係機関や地域の皆様とも十分な調整・協議を行うとともに、坂出市沙弥島ナカダ浜等を守る条例の趣旨を尊重し、歴史・文化等ナカダ浜の優れた価値をさらに高められるよう、活用に向け検討を進めていきます。

(総務部長)

質問の主な項目

・市長の政治姿勢について

など



おがさわら ひろし
小笠原 浩 議員
国民民主党議員会



讃岐ジオパーク構想を 生かしたまちづくりを

Q 讃岐ジオパーク構想はサヌカイトの世界的価値を基に、香川県全域がユネスコ世界ジオパークに認定されることを目指している。この構想を本市が香川県の中心となり進めていくことにより、教育・観光の分野から本市の価値を高めることにつながると思うが、本構想への取組に対する考えは。

A 讃岐ジオパーク構想が、世界ジオパークとして認定されるには、香川県の場合、一部の地域のみでは不足で、香川県全域でもって、その地質学的特質の多様性により認定されるレベルに達すると聞いています。ジオパークは保護するだけでなく、教育や地域振興に活用することを目的としていますので、サヌカイトという極めて貴重な石の産地である本市も、香川大学のジオパーク認定の取組に協力していきたいと考えています。

(教育部長)

定期RORO航路の 誘致に伴うリスクは

Q 定期RORO航路の誘致は、ニユーポートプラン実現のためには不可欠であると思うが、それにより地元港湾事業者の大きな減収となり、港湾労働者の雇用が奪われることも考えられる。また、港湾事業者の収益率が悪くなり、そのリスクを港湾事業者だけが背負うことにより、荷役作業ができなくなるなどのリスクが考えられるが、その対応を伺う。

A 坂出港を利用する背後企業の物流コスト削減及び物流の安定化による競争力強化のため、関東方面との定期RORO船の航路誘致の実現を最重要課題として取り組んできました。現在、検討している定期RORO船が就航した場合の議員指摘のリスクはないものと考えており、今後とも、関係事業者等との協議を行い、利用企業の競争力強化のため、坂出北インターチェンジのフルインター化やさぬき浜街道の4車線化事業などとの相乗効果を図りながら、定期RORO船の航路誘致の早期実現に努めていきます。

(技監)